

第 14 回星空案内人シンポジウム

予稿集

Ver.1 (2020/2/15)



口頭発表

守屋千春（星のソムリエみたか、頌栄女子学院）

StarTours 観望会 ～学生は何を話したいのか、なぜ話したいのか～

勤務先の中高一貫の女子校で観望会を始めてから早5年経ちました。がむしゃらだった1年目、悩みまくった2年目。コンテンツに困った3年目、ほぼ初回から参加している2人の高校生に「君たちが話をしてみないかい？」と提案したところ・・・なんと！意外な回答が返ってきました。それ以来、観望会では「高校生が（ときどき中学生も）お話をする」というスタイルが定着しつつあります。

いつもは観望会での発表者を教員である私がスカウトしていたのですが、先日立候補を募ったところ、4組5人が集まりました。彼女たちは、何を話したいのか、なぜ話したいのか。チャレンジし続けたいのはどうしてか。私は星のソムリエとして、彼女たちに何ができるのか。StarTour 星空観望会の5年間を振り返り、お話しいたします。

口頭発表

昆 愛（福島県郡山市）

福島県いわき市平豊間地区における二十三夜塔の追跡調査について

（現在作成中）

口頭発表

荒井 誠（一般社団法人宙ツーリズム推進協議会）

宙ツーリズム推進協議会のご紹介

（一社）宙ツーリズム推進協議会のご紹介をいたします。空や星・宇宙の多岐にわたる観光資源を「宙（そら）」と捉え、この宙のもつ価値をさらに際立たせ、より多くの方が幸せ／癒しを得ていただく機会の創出を目的としています。星空案内人の皆様に活躍いただける星空観望会などの普及も協議会の重要な活動としております。一昨年「観光庁によるテーマ別観光による地方誘客事業」の選定をいただき、昨年6月に一般社団法人を設立させ本格的な活動を開始いたしました。協議会の代表として、国立天文台三鷹の縣秀彦先生が推進されています。この度、新たに個人会員として協議会の活動に参画していただけるようになりましたので、協議会の活動内容についてご案内させていただきます。

口頭発表

宙詠みサークル 朔

岩手県は銀河県(東北銀河圏)

岩手県沿岸南部（気仙地域）を中心に活動している、宙詠みサークル 朔の活動報告をさせていただきます。

口頭発表
林 厚志(星のソムリエ@あんぱち。アイホン天文部。)
ソムリエ交流会を主催して
10/05-06 に中部地区の星のソムリエ同士の交流を図るために交流会をおこないました。

口頭発表
上之山幸代 (和歌山大学)
星のソムリエ 国境を越えて ～音楽・海外・そして、内なる国境～
<p>アルパ奏者である私が星のソムリエになったのは、2019年3月。</p> <p>「知って Happy」の次は「伝えて Happy」だ。</p> <p>【アルパ × 天文】の力で壁を打ち破る活動が始まった。</p> <p>★2019年10月→善兵衛ランド（天文台）へ</p> <p>雨の時のメニューは「星のコンサート」。望遠鏡は覗けなくても、星の世界は広がる。</p> <p>どの星座の曲が好きですか？</p> <p>★2019年8月→ネグロス島での12日間</p> <p>フィリピン・ネグロス島の英語学校で「アルパと星空解説」。子どもも大人も、日ごと深まる宇宙への興味。「ゼロ ShadowDay が過ぎると…？」</p> <p>★2019年10月・12月→更生施設・夜間中学</p> <p>本当は豊かになりうる人々に会いに行く。伝えたいことは何？宇宙から見た地球のこと、人類は一つであること。1990年2月28日0時30分のパラグアイの空で、さそり座とオリオン座が同時に見えたときの私の驚きと決意も伝えよう。「人間力復活」のスイッチを入れよう。</p>

口頭発表
萩野祐司（奥三河☆星空の魅力を伝える会）
星空案内人養成講座を開催するために必要なこと～奥三河☆星空の魅力を伝える会の場合～
<p>星空案内人養成講座を開催するために何が 필요한のか。手続きについては運営機構からサポートを受けることができるが、実際に開催する際には、それ以外に多くの事柄が必要になってきます。その書面だけでは伝わり切らない「星空案内人養成講座」を開催するために必要だったことを奥三河☆星空の魅力を伝える会がこれまで実施した経験をまとめて報告したいと思います。</p>

口頭発表
柴田晋平、他星空案内人資格認定制度運営機構メンバー
新しい時代に突入した星空案内人(星のソムリエ®)資格認定制度
<p>星空案内人(星のソムリエ®)資格認定制度はちょっと不思議な制度です。</p> <p>資格認定制度というと全国一律統一したものを要請するよう見えますが、制度の最大の目的は、星空案内人個人や制度の実施団体が自由に羽を伸ばして星空・宇宙を最大限楽しんでパフォーマンスしていただくことです。</p> <p>しかし、一方でこの資格制度には強い意志があってはっきりした方向性があります。</p> <p>両者の絶妙なバランスを取る活動が運営機構の仕事です。</p> <p>その一年の活動を振り返り、今後の目標について発表します。重要なトピックは(1)実施団体が41に、(2)商標の定着、(3)認定基準の改定、(4)実施団体への支援、などです。</p>

口頭発表

長野親情(NPO 法人星空ファクトリー),高橋浩一(NPO 法人星空ファクトリー)

短期集中講座の課題と展望

2019年は春1回、秋2回の短期集中講座として2泊3日の泊を伴う星空案内人の育成講座を行った。

今回で4年目の事業展開となり、星空案内人の認定証即日発行を担保するためにいろいろなノウハウが蓄積されてきた。

この4年間の短期集中講座の実績を踏まえて、受講生への技量習得の工夫や団体として「星空案内人」人材育成への取組や、今後の展望など発表します。

口頭発表

近藤京子(大川村ふるさとむら公社) イワシロアヤカ(星空案内人) 根本さやか(地域おこし協力隊)

四国初! 大川村 星のソムリエ R 講座開催!!

講座を開きたいと夢見て三年越しに実現できた星のソムリエ R 講座。準案内人が28名認定されました。感激の報告をさせていただきます。

口頭発表
齋藤 将志（ぐんま天文台）
ぐんま天文台星空案内人講座 「星のソムリエ」になろう実施報告と今後に向けて
<p>3年目を終えたぐんま天文台星空案内人講座。天文教育普及において、非常に大きな意味を持つ活動となっています。運営していく中で、受講された方々がその後どのように星空と関わっているのか、これからも増えていくであろう案内人をどのようにフォローしていくのか等、現在の課題を皆さんと共有し、星空案内人講座を今後どのように運営していくことがよいのか、さまざまな角度からご意見を伺えればと思います。</p>

口頭発表
松本 剛（琉球大学）、畑中 寛（琉球大学）、葦原恭子（琉球大学）、田端研二（ほしぞら公民館）、花山秀和（石垣島天文台）、堀内貴史（石垣島天文台）、通事安夫（八重山星の会）、小野朋典（琉球大学）、田頭明子（琉球大学）、安座間典子（琉球大学）
星空案内人養成講座の受講生の科目別単位取得状況とその考察
<p>沖縄県内では琉球大学で講座を開講してから2年目となり、令和元年度は正規生・社会人併せて112名の受講登録者があった。計6科目（必修2・選択4）の総単位取得率（単位取得者総数÷受講者総数）は69.7%であった。単位取得率が最も高かったのは「望遠鏡を使ってみよう」の91.6%、最も低かったのは「星座をみつけよう」の42.1%であった。準案内人資格取得者49名の内訳では、選択4科目の総単位取得率が72.8%、単位取得率が最も高かったのは「宇宙はどんな世界」の94.9%、最も低かったのは「星座をみつけよう」の47.6%であった。準案内人の資格取得のために必ずしも単位取得が必須ではない選択4科目についても相当高率で単位を取得し、また、他の科目に比べてやや難関の「星座をみつけよう」にも積極的に試験に挑戦する姿勢が見られる。県内で正案内人を目指す人は相当数と見られ、今後更に研鑽を積む機会を多く提供していく必要性が感じ取られる。</p>

口頭発表

荒明慎久（美瑛町郷土学館[北海道美瑛美宙]）

北海道での星空案内人講座の状況

これまで、北海道では星空案内人講座が開講されていませんでしたが、2019年に初めて当団体（美瑛町郷土学館）で講座を開くことができました。その後、もう1団体（一般社団法人 芦別観光協会）が講座を開き、現時点では2団体が案内人講座を実施しています。現時点での北海道での養成状況や今後の展望について紹介したいと思います。

口頭発表

和田浩一（星のソムリエ京都）

こども科学博の成果と星空案内人資格認定講座の価値

2019年8月に京都で開催された第1回こども科学博の「宇宙ファクトリー」ブースを星のソムリエ京都が担当しました。2日間のべ49名の講座受講生と講座卒業生が素晴らしい連携と運営で大きな成果を残すことができました。本発表は、こども科学についての報告とその成果を通して確認された星空案内人資格認定講座が生み出す人の繋がりやチームとしての実践力について論じます。

口頭発表
笹野美駒、田中幹人、池田優花、高橋あゆみ、戸澤理紗、守角夏海（法政大学）
星のソムリエ資格制度が受講生にもたらす影響～星野村・星のソムリエ講座 準ソムリエを事例に～
<p>福岡県八女市星野村は、高齢化と過疎化によって人口減少が問題となっており、法政大学学際宇宙ゼミナールでは、星をキーワードにして星野村の活性化事業に参画している。星野村の公開天文台・星の文化館では、「星のソムリエ講座」が開講されており、これまで数多くの卒業生が輩出された。我々が独自に行った初期調査により、正ソムリエは、天文学サイエンスコミュニケーション活動に積極的な参加を示すのに対して、準ソムリエは資格取得後の活動が二分することがわかった。そこで、本研究では、これまであまり注目されてこなかった準ソムリエに焦点をあて、準ソムリエの資格取得後の活動実態を解明するためにインタビュー調査を行った。その結果、準ソムリエの秘められた活動意欲は、地域活性化に密接に関係している可能性が示唆された。また、ソムリエ活動に付随してもたらされる「資格取得がもたらす副次的効果」についても紹介する。</p>

口頭発表
唐崎健嗣（合同会社プラネタリウムワークス）
裏方から見た講座運営
<p>発表者の唐崎は、今まで3箇所の実施団体で延べ11回、約500人の受講生とお会いしました。そして、事務局が多忙を極める、講座開設の準備から受付、講座期間中の受講生対応などのお手伝いをしてきました。通い形式と合宿形式の両方を経験し、それぞれにさまざまな課題がある事に気付きました。受講生・事務局・講師の3つすべてを経験してみて感じた事や、今後の問題点について考えてみます。</p>

口頭発表
富樫拓海（NPO 法人小さな天文学者の会）
やさしい宇宙講座 2019 報告
第 33 期・第 34 期やさしい宇宙講座の活動の紹介。またこれまでの活動を振り返り、現在までの宇宙講座の運営についての課題とそれに向けた今後の方針の紹介。

口頭発表
田中千秋（ギャラクシティまるちたいけんドーム）
ギャラクシティにおける星のソムリエの養成
<p>ギャラクシティまるちたいけんドーム（東京都足立区）は、プラネタリウム施設（ドーム直径 23メートル、定員 170名、斜型座席）を有した体験施設で、年間約 15万人のプラネタリウム来場者があります。</p> <p>プラネタリウム投影や番組投影をはじめ、星空音楽会や総合天文講座なども実施しており、総合天文講座では、プラネタリアン養成講座や星のソムリエ養成講座が行われている。</p> <p>星のソムリエ養成講座を始めたのは 2018年度からで、現在まで 2か年実施している。</p> <p>2018年度は受講生 30名で、準案内人合格 24名、星のソムリエ合格者 6名であった</p> <p>2019年度は受講生 20名で、準案内人合格 20名、星のソムリエ検定は実施中。</p> <p>天文の講義に関しては、参加者の知識欲と探求心によって良い成績の参加者が多く、準案内人合格者がとても多い。しかし、星のソムリエの実技や計画策定になるとハードルが高く、合格者が少ない状況である。こうした状況から、講座終了後も当館の天体観望会へのボランティア参加などにより、星空案内のきっかけづくりを鋭意進めているところである。</p>

口頭発表
堀井 敬之
やまがた天文台運営 16 年間の歩み
<p>1999 年に発足した NPO 法人小さな天文学者の会（通称小天）は、山形大学との協力によりやまがた天文台を運営しています。いまや全国にひろがった星空案内人（星のソムリエ®）資格認定制度の発祥の地であるやまがた天文台は、現在毎週土曜日開催の一般公開星空ガイドツアーをはじめ、外部への出前活動として観望会開催等、さまざまな活動を行っています。</p> <p>市民による市民のための開かれた天文台を目指す、やまがた天文台運営の 16 年間にわたる歩みをお伝えします。</p> <p>1999 年 1 月 小さな天文学者の会発足 発起人 18 名</p> <p>2002 年 12 月 14 日 NPO 法人設立総会</p> <p>2003 年 10 月 4 日 やまがた天文台完成</p> <p>2005 年 11 月 29 日 山形大学と NPO 法人小さな天文学者の会との連携協力に関する覚書締結</p> <p>2006 年秋 星空案内人（星のソムリエ TM）資格認定制度改革全国展開(JST モデル事業)やまがた天文台星空案内人資格制度一般募集開始</p> <p>2019 年秋 やまがた天文台星空案内人資格制度やさしい宇宙講座 34 期生修了</p>

口頭発表
久米 靖啓（特定非営利活動法人ナック）
受講卒業生、活動内容の展開（どこまでいくのかな？）
<p>大阪で開催中の星のソムリエ®養成講座「SORA宇宙講座 君も星空案内人になろう」も 4 期目を終了しようとしています。卒業生たちの、活動報告と今後の展開について発表いたします。</p>

口頭発表
川崎忠昭
だれでも気軽に星空ロマン その6
<p>「だれでも気軽に星空ロマン」をコンセプトに、星空案内人たちが贈る星空案内を通じて子どもからおとなまで身近に宇宙のロマンを感じてもらうための星空観望会を始めて 10 年が経ちました。</p> <p>「地域への貢献と天文学や自然科学の普及」も視野に入れて、地元の大型商業施設の協力を得ながら、春夏秋冬の季節に合わせて開催してきた「星空案内 in 西宮ガーデンズ」。</p> <p>今回の発表では、この 10 年間を振り返り、目的の達成状況や当該活動の特徴、今後の課題など、総括を試みます。</p>

口頭発表
長嶺実来、森川裕基、田代祐子（沖縄ゲリラ観望会）
ゲリラ観望会を通して伝えたいこと
<p>イベントを開催するので来てくださるのではなく人がたくさんいる場所へこちらから出向っていくゲリラ観望会。 宙（そら）をかけ橋にそこで足を止めてくださる方々と触れ合う中で少しでも宙（そら）を見上げる楽しさを感じていただけたらそこにはハッピーの自乗がたくさん溢れます。心の中にある『星が好き』という気持ちから少しでも興味を深めるきっかけになればと思いながら観望会を続けています。また 講座受講生の実技や観望会の練習の場にもできればとも思っています。そんな沖縄ゲリラ観望会の活動の様子を発表します。</p>

口頭発表
神山美穂（株式会社ビクセン）
ビクセンサテライトスタッフと星空イベントを盛り上げる
<p>ビクセンでは、星のソムリエ®取得者をはじめ、星が好き、星を見せる活動をしたい方にスタッフ登録いただき、ビクセンが行う全国各地の星空イベントで活躍いただいています。</p> <p>導入して3年が経つ、登録制アルバイト「サテライトスタッフ」について発表します。</p>

口頭発表
山口環子、米原夏葵、穂積正人（兵庫県立舞子高等学校天文気象部）
星空案内人と舞子高校天文気象部の取り組み
<p>天文気象部では、近隣の公園や商業施設・小学校などで、「星の観察会」を開催しています。時間・場所・来場者の年齢などを考慮してプログラムを考えます。具体的には、①Mitakaによる3D宇宙旅行の上映、②プラネタリウム上映、③天文・宇宙に関するニュース解説、④月・惑星・恒星の観察、⑤昼間：太陽の観測（黒点やプロミネンスの観測）、⑥昼間の星の観測、⑦天文関係のワークショップなどを行っています。8月には、小学生向けの自由研究のため、「小型望遠鏡製作」を行い、自分の製作した小型望遠鏡で星空を見る企画も行っています。</p> <p>部員は、高校生ではめずらしい「星空案内人(星のソムリエ)」の資格を取得し、自信を持って来訪者に案内できるとともに、星空や宇宙の楽しみ方についてお話ができます。</p> <p>最近では、国連の定めたSDGsの目標に合わせ、光害のない、自然豊かなまちづくりをめざしています。</p>

口頭発表

富樫拓海 (Tohoku Space Community)、敏蔭星治 (Tohoku Space Community)

Tohoku Space Community - 東北を宇宙でワクワクさせる

Tohoku Space Community は「Mission:東北を宇宙でワクワクさせる Vision:宇宙好きのコミュニティを形成し新たな出会いや学びを創出する」を基に主に学生を中心に組織された宇宙好きのコミュニティ形成を目的とした団体です。

今回の口頭発表では Tohoku Space Community の概要と活動内容の紹介をさせていただきます。

ポスター発表

沢 聖子

山形式 2 段ロケットのその先へ -星空案内人勉強会☆R の試み-

楽しく講座を修了！ドキドキの路上試験を突破して星空案内人としてデビュー！！

でも、その後、案内人としての活動に一步をためらっている人はいませんか。

気持ちが迷子になっていませんか。

例えば、一か月に一度、星好きの人と会っておしゃべりをする。その時に情報交換もできると、さらに嬉しい。ココロのもやもやがちょっぴり軽くなるそんな集まりがあるといいな→無いなら作ればいいじゃん。

という発想から始まった私的な活動 5 年の紹介です。

星空案内グッズ展示

唐崎健嗣（プラネタリウムワークス）

移動式プラネタリウム

移動式プラネタリウムは機器の進歩によって簡単に実現できるようになりました。プロジェクターと魚眼レンズ、エアドームと制御用パソコンがあれば上映ができます。観望会の日が晴れるとは限りません。生の星空が見えない時は、プラネタリウムで観望会を実施するのはいかがでしょうか。

星空案内グッズ展示

高橋正好

コルキット双眼鏡と赤道儀と付属品

展示物 1. 木の端材を利用したコルキット用双眼鏡架台

展示物 2. 木の端材を利用したコルキット用赤道儀と付属品

付属品 1. ホースバンドを利用したコルキットのピント調整ノブ

付属品 2. コルキットのガイドスコープ用照明

星空案内グッズ展示

高木功治（NPO 法人小さな天文学者の会 関東観望会）

星空案内ボード

星空案内に使用する透明なホワイトボード。LEDで発光し暗い中で図示による案内が可能。透明なため実際の夜空に透かしながら星を追いながら説明することが可能。望遠鏡の視野内にどのように見えるのかの説明や、建物との位置との相対的な図示を行える。暗い場所で発光する看板ともなり観望会をやっていることの案内や望遠鏡に導入している天体の名称や説明を立てかけておくことも可能。